

平成28年度パネル展（会期：平成28年3月22日（水）～6月18日（日））

## 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2016-2017



## 1 はじめに

船原古墳は、福岡県古賀市に位置する古墳時代（6世紀末から7世紀初め）の前方後円墳です。平成24年度の発掘調査により、その傍らから大量の遺物を埋納した土坑が未盗掘のまま発見されました。

九州歴史資料館では、遺物埋納坑の発見当初から、古賀市教育委員会と共に調査を行ってきました。本パネル展では、国内3例目、九州初出土となる馬胄の調査成果を中心にご紹介します。

## 2 馬胄の基礎構造と系統

馬胄は馬の頭部に装着する馬具です。複数の鉄板を鋸で連結して作られています。大きく分けて3つの部位から構成されており、馬の顔を覆う「面覆部」、馬の頬の部分に吊り下げる「頬当部」、馬の頭の上を立てる「底部」に分類されます。（図1）

馬胄の形や構造は、細かく見ると一つ一つ違いますが、大きく分けて2つの系統があります。（図2）

系統1は、上板（馬の目の間から鼻先を覆う部分）を1枚の鉄板で作ります。馬の目にあたる「眼孔部」と呼ぶ孔が、面覆部の上板と側板にまたがってあけられていることが多いのが特徴です。

系統2は、上板が2枚の鉄板を左右に分割し、中央の細長い鉄板で連結して作ります。「眼孔部」の孔は、面覆部から側板、その下の頬当部にまたがってあけられていることが多いのが特徴です。

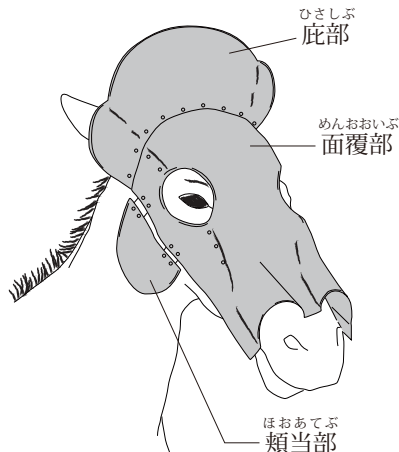


図1：馬胄各部の名称

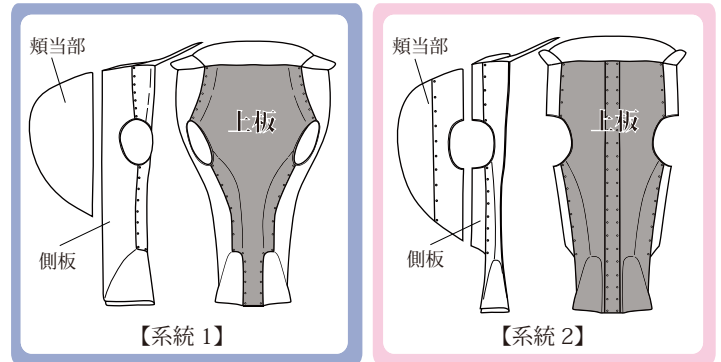


図2：馬胄の系統

## 3 船原古墳出土馬胄の構造

船原古墳出土の馬胄は、面覆部と底部との結合部から鼻先までを1枚の鉄板で作られており、上板を分割しないタイプの系統1に該当します。（図3）

面覆部は、羽子板形の上板1枚と、左右1枚ずつの側板で構成され、その後ろに1枚の鉄板で作られた半円形の底部が連結します。これに、左右の頬当部を加え、全体で6枚の鉄板で構成されています。

各鉄板の端部は外側に折り返して処理されています。端部の処理は、面覆部と頬当部の一部を除き全周にかけて行われています。他の事例の中には、同様の処理を部分的にしか行わないものもあり、船原の馬胄は丁寧に作られたものといえます。

大きさは、鼻先から底部の根元までの長さは約50 cm、幅は後方の最広部で約35 cm、鼻先で約25 cm、底部の高さは約10 cmとなっています。

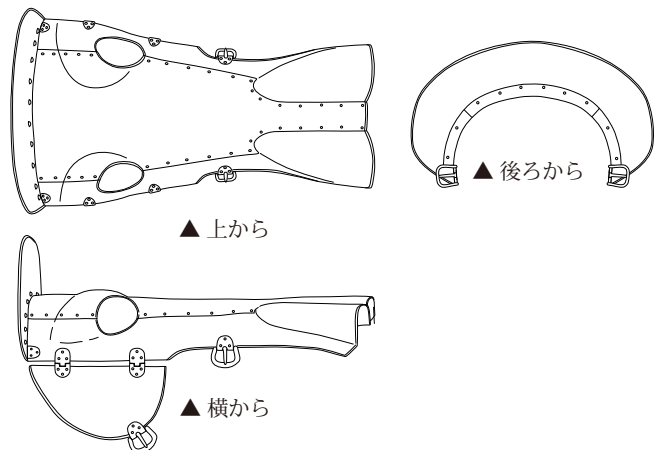
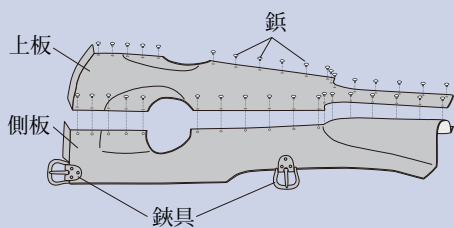


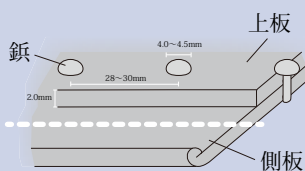
図3：船原古墳馬胄模式図

## 4 各部構造の詳細

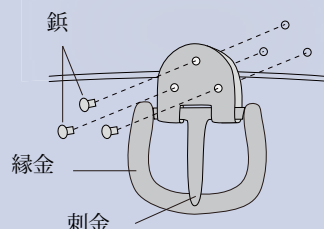
### ● 面覆部



【面覆部の構造】(左:模式図 右:遺物現状)

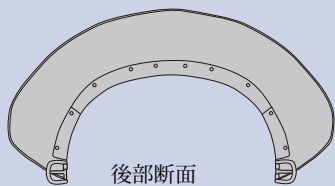


【鉚留めの構造】(左:模式図 右:遺物現状・CT画像)

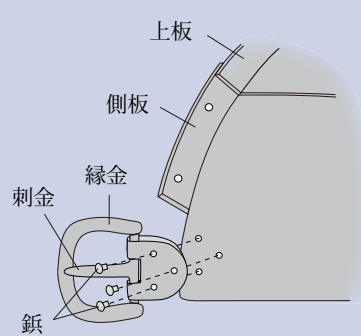
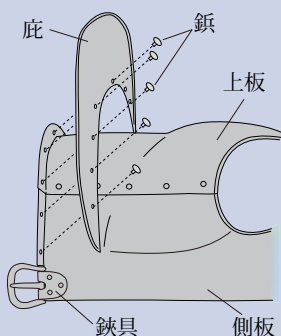


【鉄具の構造】

### ● 底部



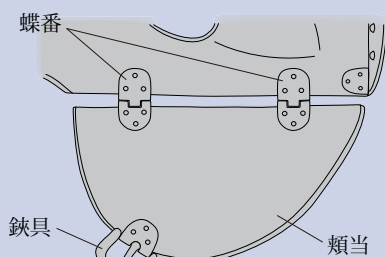
【底部の構造】



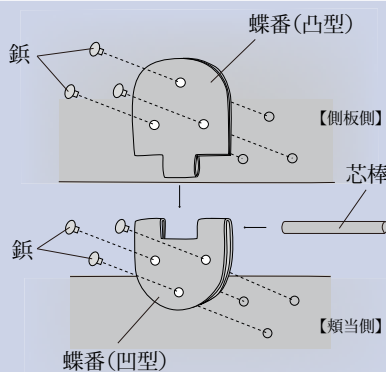
【鉄具の構造】



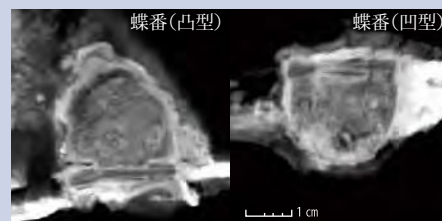
### ● 頬当部



【底部の構造】



【蝶番の構造】



## 5 小結

平成28年度の調査では、船原古墳の馬冑について様々な構造的特徴を確認しました。形態的な分類では、系統1(上板を分割しないタイプ)に該当します。同系統の馬冑は、国内では大谷古墳、朝鮮半島では玉田古墳群<sup>ぎょくでんこふんぐん</sup>28号墳・M3号墳A・23号墳、<sup>こうなんどうこふんぐん</sup>皇南洞古墳群109号墳などが系統1になります。

朝鮮半島から出土する馬冑の多くは五世紀頃が中心であり、大谷古墳も五世紀中頃から六世紀初頭とされています。船原古墳が造られた時期は、六世紀末から七世紀初頭と考えられており、多くの馬冑が出土した時期とは時間的な差異があります。今後、船原古墳から出土した馬冑については更なる検討が必要と考えられます。(学芸調査室 小林啓)



編集 発行:平成29年3月22日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>